

1. 理念・目的・教育目標の達成状況

本学は、学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」）と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）に則り、「三無主義」（出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め、活躍の機会を与える）の学風を掲げ、6学部3研究科6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育、研究、診療・実践、そしてリベラルアーツを通じて国際レベルでの社会貢献と人材育成を進めている。

ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに則した教育を展開し、学生と教員の距離が近く、きめ細かな指導を実践している。この結果、学部における学修成果の指標として重視している各国家試験合格率、教員採用試験受験者数・合格者数結果、就職率は、いずれも毎年、全国平均を大幅に上回る実績を上げている。

大学院における学修成果の指標としては、学位論文の質を重視している。インパクト・ファクター（IF）やサイテーション・インデックス（CI）の高い論文が数多く発表されていることは、当大学院に質の高い大学院教育とともに優れた研究成果を生み出せる確かな指導力があることを証明している。

今回の自己点検・評価の結果から、大学全体としては、教育・研究関係、学生関係、管理運営・財務関係において、それぞれの基準を満たしていると考え、継続的に様々なレベルでPDCAサイクルを回し、大学改革を進め、更なる高みを目指していきたい。

2. 優先的に取り組むべき課題

1) 内部質保証の推進

2020(令和2)年4月から、本学の内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織として、学長の下に「内部質保証推進委員会」を整備した。同委員会を中心として、内部質保証システムが有効に機能するよう取り組んでいく。2019(令和元)年度、(公財)大学基準協会より、2016(平成28)年度の大学基準「適合」判定の妥当性を検証する調査を受けた際、医学部入学者選抜に係る学生の受け入れ、管理運営及び内部質保証に関して指摘を受けているが、これらについても同委員会を中心に改善に取り組んでいる。

2) 3つのポリシーを起点としたPDCAによる教育・研究の質保証

3つのポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、教育・研究等の改善・向上を図るための内部質保証システムを確立していくことが必要になる。「学生が何を身につけたか」という観点を重視して、学修成果の把握が適切にできるような評価方法を確立していくために、2018(平成30)年度には、全学的にアセスメント・ポリシーを定め、運用を開始している。また、カリキュラムの改善に関しては、現行カリキュラムを評価し、改善の提言を行うカリキュラム評価委員会を各学部・研究科で整備した。この委員会には教務委員会やカリキュラム委員会とは別の独立した組織で、客観的な評価を行うことを目的にしておき、その評価結果は、内部質保証推進委員会及び大学協議会にて全学的に検証し改善するというサイクルを確立していく。

3) 国際化の推進

国際化推進方針である「国際化ビジョン」に基づき、学位取得留学生数、短期受入留学生数、

終章

海外留学・派遣・研修等学生数及び国際交流協定校数の増加を図るよう取り組んでいきたい。

教育の国際的通用性に注目が集まる中、本学では、「TOEFL」、「IELTS」を中心とした英語教育を全学で推進している。入学試験においても、国際化に対応できる素養を持った学生を求め、両試験に代表される外部評価機関の得点を出願条件に加える等の改革を継続したい。

研究面では、基礎医学と臨床医学が有機的に連携する優れた研究体制を築いてきたことが、多数の国際レベルでの論文発表に繋がっている。引き続き、国際共同研究を推進し、質の高い論文数の増加に注力していきたい。2019(令和元)年には、学内外の研究開発シーズの社会実装を図るため、外部エキスパートとも連携し、ワンストップのインキュベーションサービスを提供する取り組みとして、オープンイノベーションプログラム「GAUDI (Global Alliance Under the Dynamic Innovation)」をスタートさせており、各種の取り組みが進捗している。2020(令和2)年3月には、順天堂医院が医療法に基づく臨床研究中核病院として承認され、国内外における更なる臨床研究の発展が期待できる。

4) 新型コロナウイルス感染症への対応

感染防止の観点から、対面授業に代えて、同時双方向型の遠隔授業やオンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業等、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で、学生が授業を履修できるように環境整備を進める必要がある。多様なメディアを高度に利用した授業と実習・演習・実技科目等の対面授業が必要なものを適切に組み合わせたハイブリット型の授業運営についても検討したい。

3. 今後の展望

1) 施設の整備・拡充

大学キャンパス・ホスピタル再編事業は、2019(令和元)年度で12年を経過したが、当初方針の通り原資を手元資金で賄い、財務状況に影響を与えることなく各キャンパス・附属病院における施設の拡充計画が順調に推移している。

特に、本郷・お茶の水キャンパスでは、順天堂医院の建替えが完了し、センチュリータワーを中心とした教育研究環境も飛躍的に改善している。2020(令和2)年9月には、新研究棟であるA棟(Ⅱ期)が竣工し、2018(平成30)年12月に竣工した高層棟A棟(Ⅰ期)とともに先進的研究の国際的な交流推進拠点となる。また、本学は、文京区が推し進める旧元町小学校の再編事業に関して、事業者を選定されおり、AIインキュベーションファーム、スポーツロジセンター及びGAUDIに関する事業にも取り組んでいる。

さくらキャンパスでは、2021(令和3)年度のスポーツ健康科学部の入学定員増(400名→600名)に向けて、講義棟・学生寮の建設が進んでいる。

今後も、計画に沿って着実に各種事業を進め、施設の整備・拡充を図りたい。

2) 教育・研究組織の規模拡大

2019(令和元)年度は、大学院医学研究科(修士課程・博士課程)及び大学院医療看護学研究科(修士課程)における入学定員増により、教育・研究組織の規模拡大を図った。今後も、入学志願者の増加が続いている既存学部・大学院研究科における入学定員増の検討を進めたい。また、

終章

浦安市日の出地区（約 40,000 m²）に校地を確保しており、2022(令和4)年度より新キャンパス及び新学部開設に向けた検討を進めていきたい。

4. おわりに

大学を取り巻く環境や大学に求められることが変わろうとも、学是「仁」、理念「不断前進」、そして学風「三無主義」からなる順天堂人としての文化、風土はぶれることはない。今後も順天堂は、永き良き伝統を継承し、自ら改革することを怠らず、教育、研究、診療・実践の質を高め、国際的にも評価され続ける「健康総合大学・大学院大学」として、人材育成と社会貢献を進めていきたい。

2020（令和2）年10月

順天堂大学学長 新井 一